

V 社会的な活動

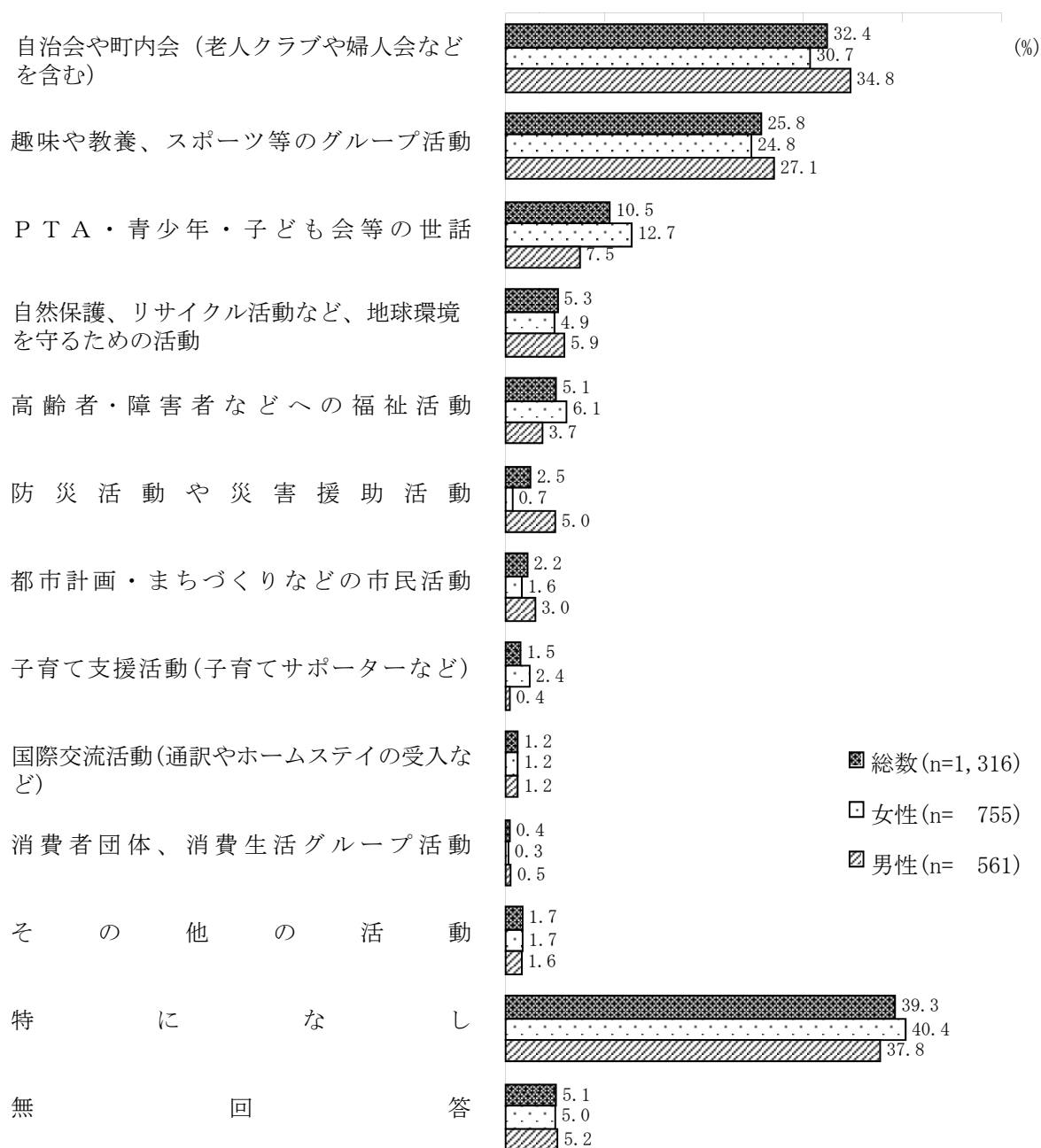
1 社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向

問14 あなたは団体やグループで仕事以外の活動をしていますか。

(a)現在活動しているものを、次の中からすべてあげてください。(〇はいくつでも)

男女とも、現在活動している社会活動は、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」（女性30.7%、男性34.8%）、「趣味や教養、スポーツ等のグループ活動」（女性24.8%、男性27.1%）が特に多くなっている。

図14-1 社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向(a)現在活動しているもの 項目別一覧(性別)



社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向

(a) 現在活動しているもの

【性別】

「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」「防災活動や災害支援活動」は男性の方が4ポイント多くなっている。「PTA・青少年・子ども会等の世話」は女性の方が5ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は能登北部（46.9%）が多い。また、「PTA・青少年・子ども会等の世話」「高齢者・障害者などへの福祉活動」は能登中部で他の地域と比べ多くなっている。

男性では、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は能登中部（50.9%）と南加賀（47.9%）が多い。また、能登北部では、他の地域と比べ、「PTA・青少年・子ども会等の世話」（19.4%）、「防災活動や災害支援活動」（13.9%）、「都市計画・まちづくりなどの市民活動」（8.3%）が多い。「高齢者・障害者などへの福祉活動」は能登中部（12.3%）で多くなっている。

【年代別】

女性の場合、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は40代以上では3割を超えているが、20代では1割未満となっている。「PTA・青少年・子ども会等の世話」は30代（26.1%）、40代（33.1%）で特に多い。「高齢者・障害者などへの福祉活動」は50代（11.2%）、60歳以上（10.8%）で多く、「趣味や教養、スポーツ等のグループ活動」は年齢が上がるほど多くなっている。

男性では、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は年代が上がるとともに比率が高くなる傾向にあり、60歳以上（44.3%）では4割を超えている。「PTA・青少年・子ども会等の世話」は、女性同様30代（10.7%）、40代（16.9%）が多い。

【ライフステージ別】

女性では、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は独身期（4.3%）で少ない。「PTA・青少年・子ども会等の世話」は、家族成長中期（58.7%）で特に多く、「高齢者・障害者などへの福祉活動」はライフステージが上がるごとに比率が高くなっている。

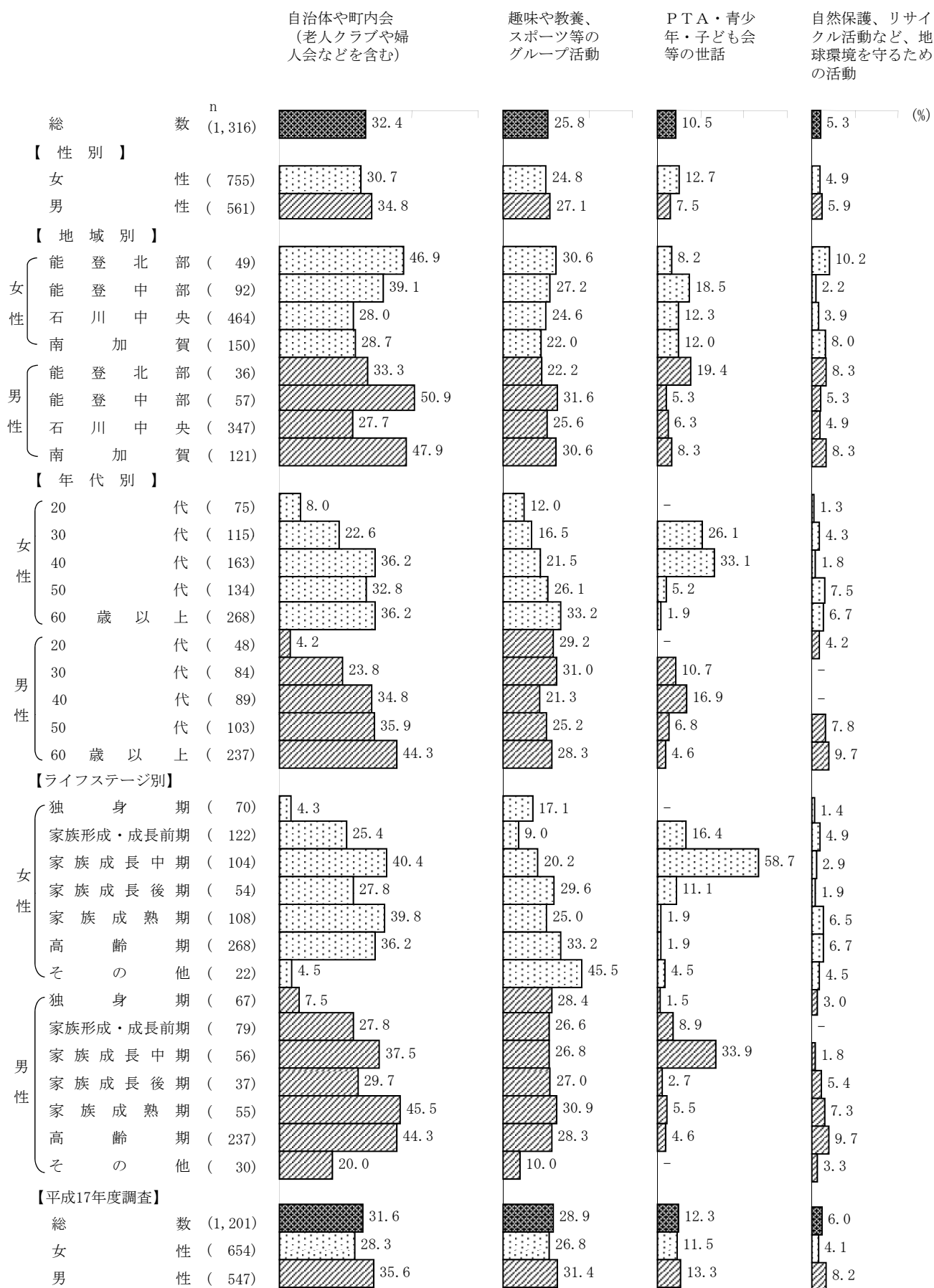
男性の場合も、「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は独身期（7.5%）で少なく、「PTA・青少年・子ども会等の世話」は、家族成長中期（33.9%）が多い。

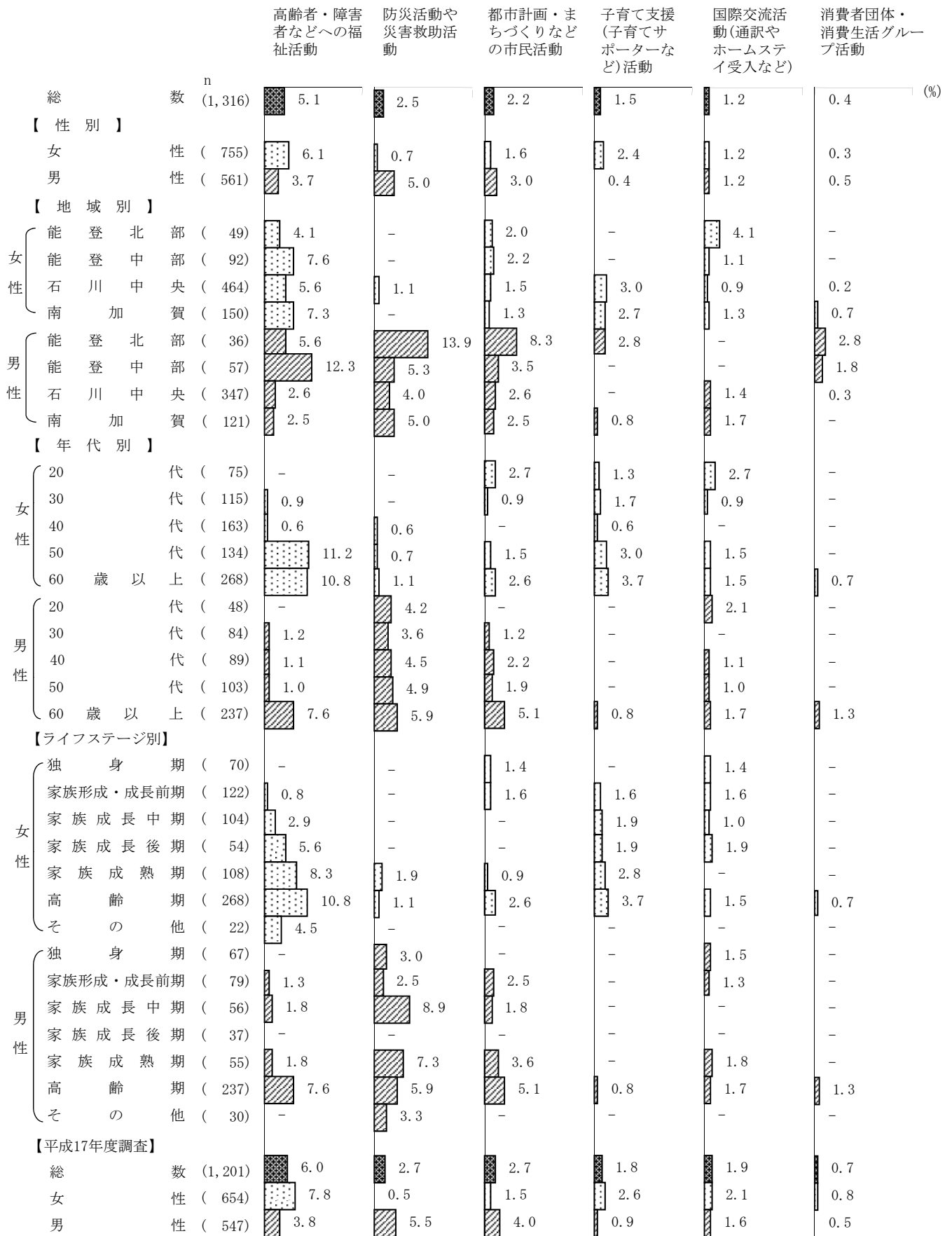
【平成17年度調査との比較】

「PTA・青少年・子ども会等の世話」が、男性が6ポイント減少しているが、その他は男女とも若干の比率の変化はあるものの、全体の傾向は前回と変わらない。

図14-2 社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向(a)現在活動しているもの

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)



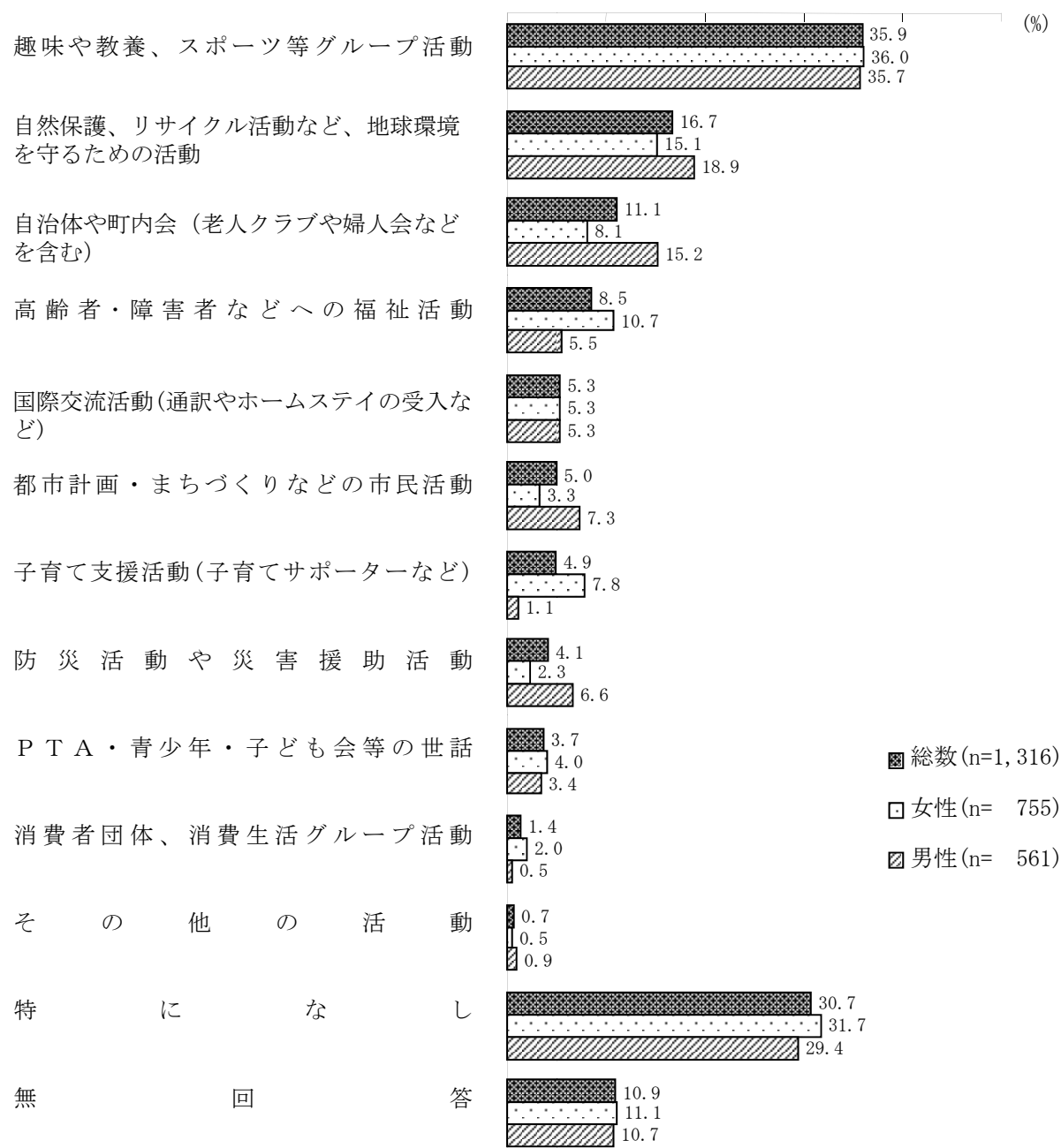


問14 (b) 今後活動してみたいものを、次の中からすべてあげてください。(〇はいくつでも)

今後活動してみたい社会活動では、男女とも「趣味や教養、スポーツ等のグループ活動」(女性36.0%、男性35.7%)が特に多く、「自然保護、リサイクル活動など、地球環境を守るための活動」(女性15.1%、男性18.9%)が続いている。

以下、女性は「高齢者・障害者などへの福祉活動」(10.7%)、「子育て(子育てサポーターなど)支援活動」(7.8%)の順、男性では、「自治会や町内会(老人クラブや婦人会などを含む)」(15.2%)、「都市計画・まちづくりなどの市民活動」(7.3%)となっている。

図14-3 社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向(b) 今後活動してみたいもの 項目別一覧(性別)



社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向

(b) 今後活動してみたいもの

【性別】

「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は男性の方が7ポイント多くなっている。「高齢者・障害者などへの福祉活動」は5ポイント、「子育て支援(子育てサポーターなど)活動」は7ポイント、それぞれ女性の方が多くなっている。

【地域別】

女性では、能登中部で「趣味や教養、スポーツ等のグループ活動」（45.7%）が多い。また、「自然保護、リサイクル活動など、地球環境を守るための活動」は南加賀（22.7%）で他の地域と比べ多くなっている。

男性の場合、「趣味や教養、スポーツ等のグループ活動」は石川中央（39.2%）で多くなっている。

【年代別】

女性の場合、「趣味や教養、スポーツ等のグループ活動」は20代（52.0%）と50代（44.0%）が多い。また、50代では、「自然保護、リサイクル活動など、地球環境を守るための活動」（21.6%）、「高齢者・障害者などへの福祉活動」（15.7%）も他の年代と比べて比率が高くなっている。

男性では、「趣味や教養、スポーツ等のグループ活動」は女性同様20代（43.8%）、50代（42.7%）が多い。「自然保護、リサイクル活動など、地球環境を守るための活動」は、年代が上がるにつれ比率が高くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、「趣味や教養、スポーツ等のグループ活動」は独身期（52.9%）家族成熟期は、「高齢者・障害者などへの福祉活動」「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」「趣味や教養、スポーツ等のグループ活動」で他の年代と比べ上位に上がっており、意欲の高い層と考えられる。

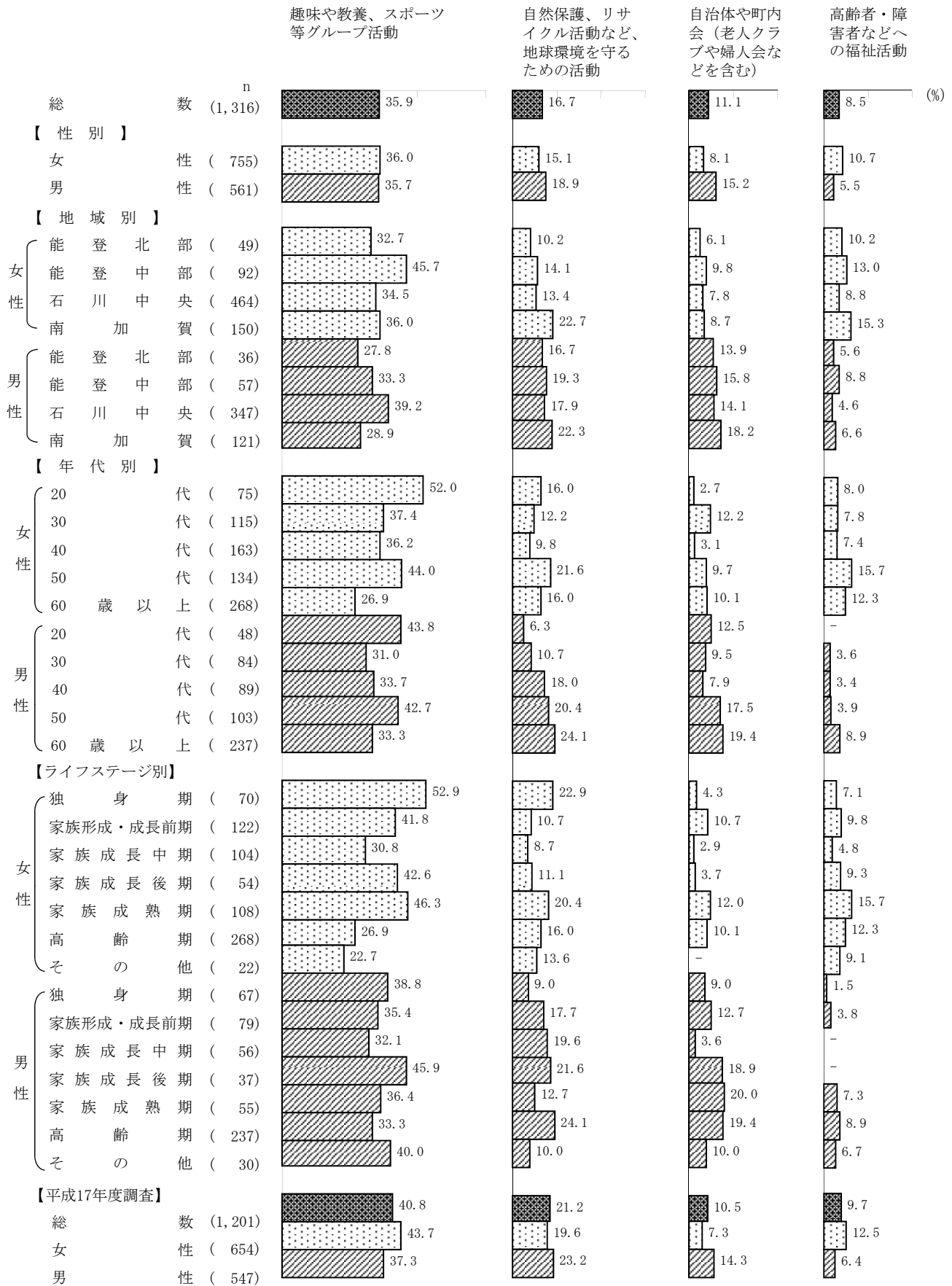
男性の場合、「趣味や教養、スポーツ等のグループ活動」は家族成長後期（45.9%）で最も多く、次いで独身期（38.8%）が続いている。「自治会や町内会（老人クラブや婦人会などを含む）」は、家族成長後期（18.9%）、家族成熟期（20.0%）、高齢期（19.4%）が多い。

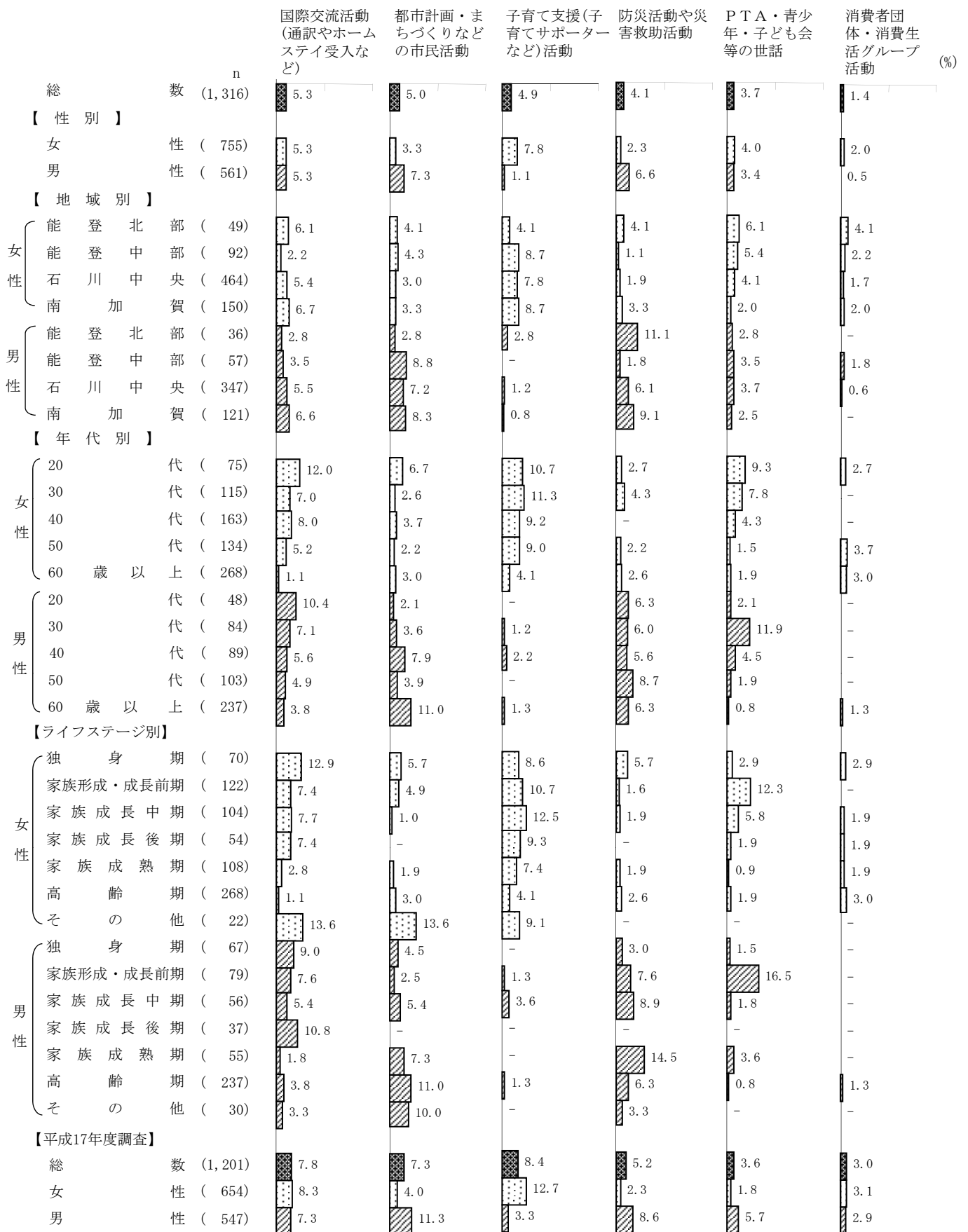
【平成17年度調査との比較】

全体で見ると、「趣味や教養、スポーツ等のグループ活動」、「自然保護、リサイクル活動など、地球環境を守るための活動」がそれぞれ5ポイント減少し、全体的に減少傾向にある。

図14-4 社会的な活動への参加の状況と今後の活動意向(b)今後活動してみたいもの

(性別、地域別、年代別、ライフステージ別、平成17年度調査結果)





2 社会的な活動に参加していない理由

(問14 (a) で現在している活動は「特になし」と答えた人に)

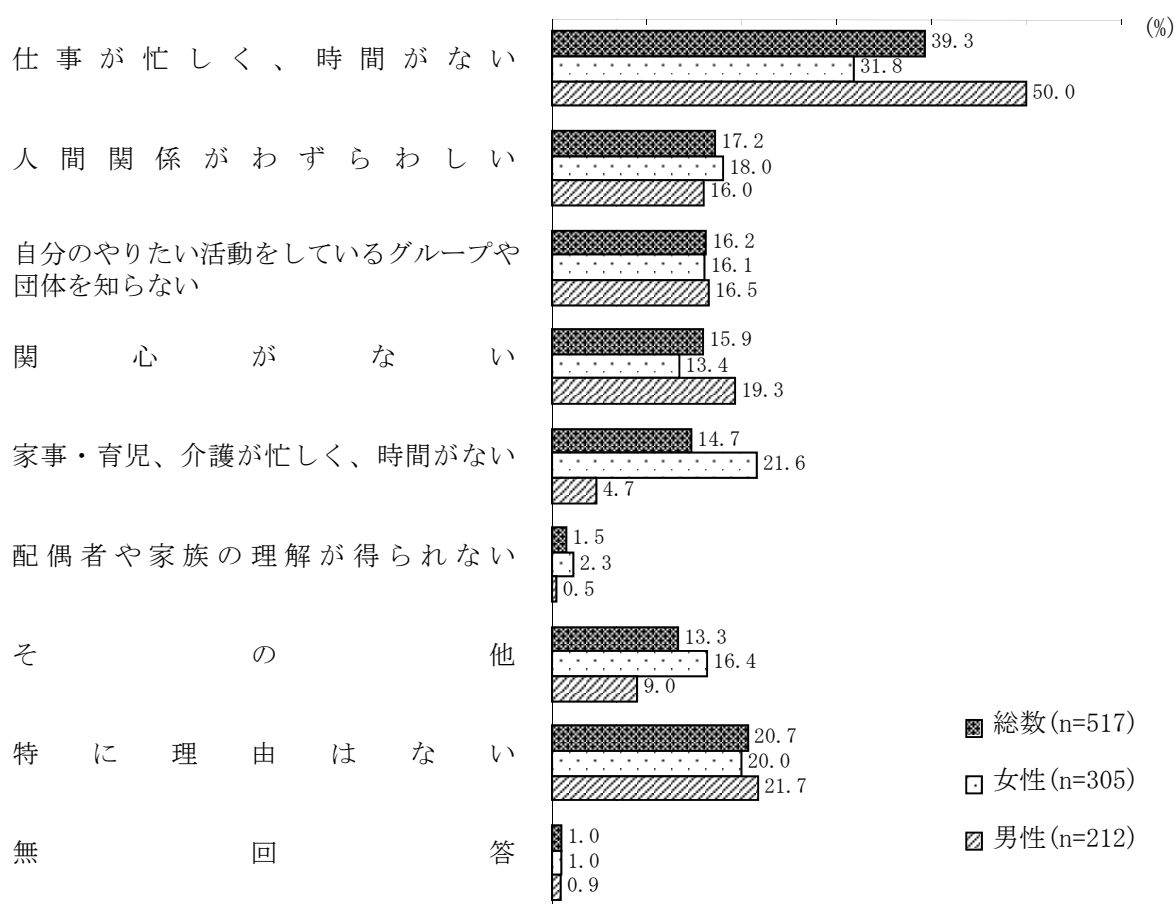
問15 社会的な活動に参加していない理由は何ですか。(○は2つまで)

男女とも、「仕事が忙しく、時間がない」(女性31.8%、男性50.0%)が参加していない理由の第1位となっているが、男女の差は大きく、男性の方が18ポイント多い。

以下、女性では「家事・育児、介護が忙しく、時間がない」(21.6%)、「人間関係がわずらわしい」(18.0%)「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」(16.1%)の順となっている。「家事・育児、介護が忙しく、時間がない」は男性では4.7%と少なく、女性との差が大きい。

一方、男性では「関心がない」(19.3%)、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」(16.5%)、「人間関係がわずらわしい」(16.0%)の順となっている。

図15-1 社会的な活動に参加していない理由 項目別一覧(性別)



3 指導的立場に女性が少ない理由

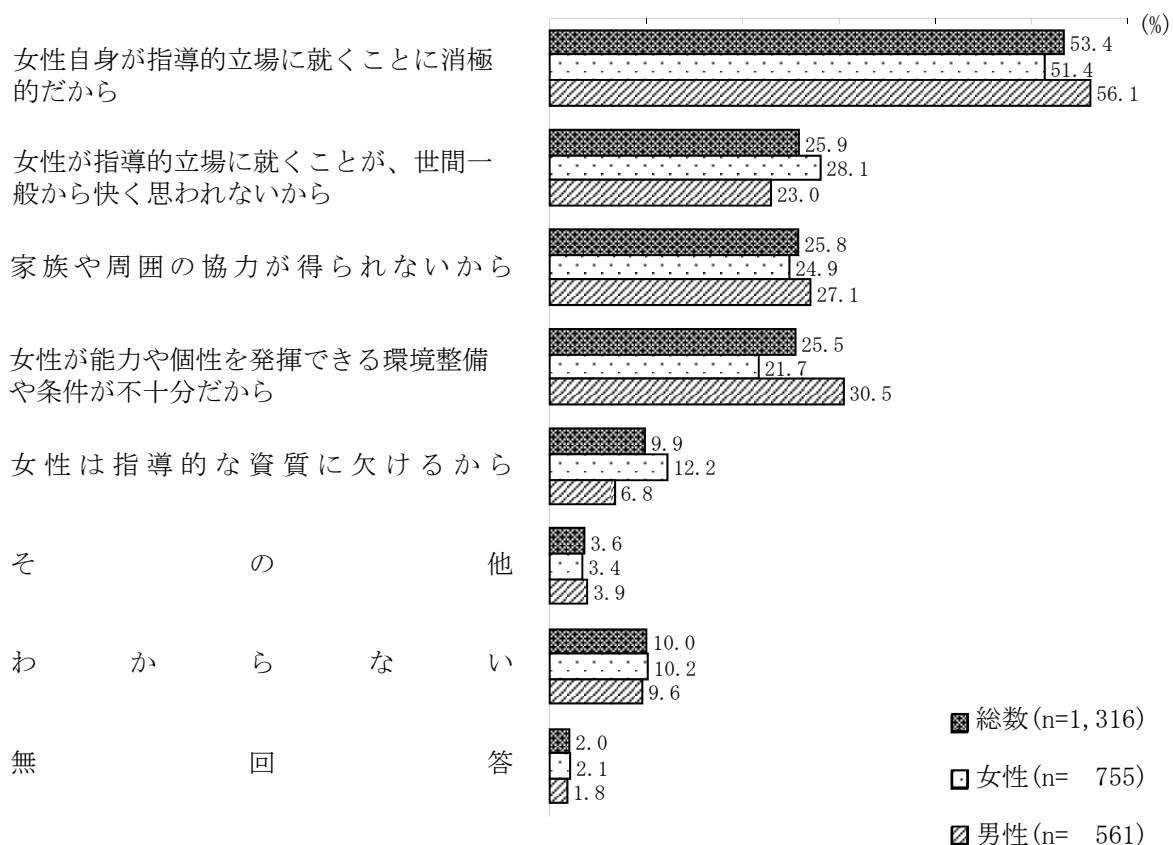
問16 地域における活動において、女性が町内会長やPTA会長など指導的立場につくことは少ないのが現状ですが、この主な理由は何だと思いますか。（〇は2つまで）

男女とも、「女性自身が指導的立場に就くことに消極的だから」（女性51.4%、男性56.1%）が最も多くなっている。

以下、女性では「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」（28.1%）、「家族や周囲の協力が得られないから」（24.9%）「女性が能力や個性を發揮できる環境整備や条件が不十分だから」（21.7%）の順となっている。

一方、男性では「女性が能力や個性を發揮できる環境整備や条件が不十分だから」（30.5%）、「家族や周囲の協力が得られないから」（27.1%）、「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」（23.0%）の順となっている。また、「女性は指導的な資質に欠けるから」と思っているのは、男性（6.8%）より女性（12.2%）の方が多い。

図16-1 指導的立場に女性が少ない理由 項目別一覧（性別）



指導的立場に女性が少ない理由

【性別】

性別で最も差違が見られるのは「女性が能力や個性を発揮できる環境整備や条件が不十分だから」で、男性の方が9ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「女性自身が指導的立場に就くことに対して消極的だから」は南加賀（42.0%）で他の地域に比べ少なくなっている。また、「女性は指導的な資質に欠けるから」は石川中央（14.7%）で他の地域と比べ多くなっている。

男性の場合、「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」は能登中部（33.3%）で多く、「家族や周囲の協力が得られないから」は石川中央（24.2%）で他の地域に比べて少なくなっている。

【年代別】

女性の場合、「女性自身が指導的立場に就くことに対して消極的だから」は40代以上で多くなっている。「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」は20代（40.0%）が多いが、60歳以上（17.2%）では少なく、2倍以上の差が見られる。また、「女性が能力や個性を発揮できる環境整備や条件が不十分だから」も20代（32.0%）で多くあがっている。「家族や周囲の協力が得られないから」は、40代（31.3%）が多い。

男性の場合、「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」は女性同様20代（39.6%）で多く、50代（19.4%）、60歳以上（19.8%）で少ない。「家族や周囲の協力が得られないから」は、50代（34.0%）、60歳以上（32.5%）で多く、3割を超えている。

【未既婚別】

女性では、離死別者で「家族や周囲の協力が得られないから」（27.4%）が多く、「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」（20.4%）は少ない。未婚者では、他に比べて「女性が能力や個性を発揮できる環境整備や条件が不十分だから」（30.9%）、「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」（30.9%）が多くなっている。

男性の場合、「女性自身が指導的立場に就くことに対して消極的だから」が有配偶者（59.3%）で多く、6割近くあがっている。「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」は、離死別者（12.5%）では少なく1割台である。

【平成17年度調査との比較】

「女性自身が指導的立場に就くことに対して消極的だから」は、女性は5ポイント、男性は4ポイント増加している。

図16-2 指導的立場に女性が少ない理由（性別、地域別、年代別、未既婚、平成17年度調査結果）

